

第38回

TOLIC カンファレンス

キオクシア アイーナ 岩手県民情報交流センター
アイーナホール（7F）[▶ アクセス](#)

共催：TOLIC / いわて産業振興センター / 株式会社イーハトーブ・スクエア
後援：岩手医科大学

2025
12/25(木)
10:30~17:15



10:30~12:00 学生発表

第1部 高校生探究発表

● 盛岡第一高等学校

演題：「学校資源の循環化」

発表者：2年

佐藤道さん、松波日和さん、四戸和佳さん

演題：「見えない冬を快適に」

発表者：2年

矢幅心さん



● 釜石高等学校

演題：「ミントで殺菌～持続可能な手指消毒液の開発～」

発表者：理数科2年

大下桜雅さん、古館醍奉さん



第2部 インターンシップ2025報告

● 2025年度インターンシップ報告

演題：「2025年度インターンシップ実施報告：参加学生の声と今後の展望」

発表者：松坂ひまり様 (TOLIC学生幹事)



● TOLIC企業受入コース

演題：「TOLICインターンシップ報告：株式会社アイカムス・ラボにおける
卓上射出成形機を用いたプラスチックプレートの開発」

発表者：森空華さん、佐藤健太郎さん

(岩手大学 理工学部 システム創成工学科機械科学コース 4学年)



● グローバル連携コース

演題：「グローバル連携コース インターン報告」

発表者：高橋颯さん (一関工業高等専門学校 未来創造工学科 4学年)

参加申し込み

ご参加の方は、右のQRコードで **12/15(月)** までにお申し込みください。
お問い合わせ: TOLIC事務局 片野映美 E-mail: e.katano@tolims.co.jp

参加申込は
こちらから





13:00～17:15 カンファレンス



開会・来賓挨拶

- ・TOLIC会長 小山 康文
- ・岩手県商工労働観光部部長 箱石 知義様
- ・東北経済産業局 地域経済部 製造産業課 課長 百目鬼 行弘様

特別講演

「岩手医大の新たな研究体制～創薬を目指した開かれた研究体制による地域から必要とされる大学の構築～」

岩手医科大学副学長 研究開発・共創センター長 仲 哲治様



企業発表

- 「難治性がんに対する新しい抗体薬物複合体の社会実装に向けた事業開発」
ONSSI株式会社（岩手医大発ベンチャー）代表取締役 鈴木 悠地様
- 「AIバイオロード・モニタリングの確立によるアスリートの負荷反応と生体応答の統合時系列モデリング」
株式会社YELLOW 代表取締役 大坂 亮平様
- 「メディカルフィットネスの可能性」
メディカルフィットネスMOVE ON マネージャー 渡辺 幸太郎様
- 「TOLICウェルビーイングによる地方創生構想」
株式会社TOLIMS 代表取締役会長 片野 圭二様
- 「母子保健・予防接種分野のDXに関する取り組み」
株式会社ミラボ 営業部 セールスマーケチーム チーフ 菅原 賢二様
- 「分子接合技術とその医療機器展開」
株式会社いおう化学研究所 代表取締役社長 森 克仁様
- 「タンパク質非吸着コーティング材のご提案～次世代バイオ医薬品の安定性向上に向けて」
AGC株式会社 技術本部材料融合研究所
有機材料部 複合化材料チーム マネージャー 谷口 太平様
- 「医療デバイス・イノベーションのおこしかた」
Zenius株式会社 代表取締役 六車 惟様
- 「救急医療と地域DXの実践」
Golden Field株式会社 代表取締役 金野 利哉様
- 「遠隔運動療法アプリケーションUpdate 2025 end of the year」
株式会社UTヘルステック 代表取締役CEO 織部 一弥様
- 「海外展示会報告 - Bio Europe / MEDICA -」
株式会社TOLIMS 代表取締役社長 片野 友貴様

情報提供

- 「一般社団法人BtoR」設立報告
TOLIC 代表幹事 片野 圭二
- 「令和7年度補正予算及び令和8年度予算における研究開発事業等について」
東北経済産業局 地域経済部 産業製造課 課長 百目鬼 行弘様



18:00～ 情報交換会兼クリスマス忘年会

マリオス4F 「レストラン ジーグリート」（[アクセスはこちら](#)） 会費：5,000円



講演アブストラクト

特別講演

「岩手医大の新たな研究体制～創薬を目指した開かれた研究体制による地域から必要とされる大学の構築～」

岩手医科大学 副学長 研究開発・共創センター長 仲 哲治 様

岩手医科大学では、創薬を目指した開かれた研究体制づくりを進めています。地域の医療や産業の課題に向き合いながら、産官学の連携を深め、社会（地域）から求められる大学像の再構築を図っています。本講演では、研究体制の仕組みや連携の広がり、今後の展望についてご紹介したく思います。

企業発表

●「難治性がんに対する新しい抗体薬物複合体の社会実装に向けた事業開発」

ONSSI株式会社（岩手医大発ベンチャー）代表取締役 鈴木 悠地 様

ONSSI株式会社は、岩手医科大学発の創薬ベンチャーで、岩手医科大学の仲哲治教授らが同定した癌抗原（Glypican-1）を標的とする、新しい抗体薬物複合体(Antibody-drug-conjugate: 以下GPC1-ADC)の社会実装を目指しています。GPC1-ADCは、食道癌、膵臓癌、胃癌、子宮頸癌など多様な癌に治療効果が期待されます。2026年にサル安全性試験の完了、2028年の早期臨床試験（第I相試験）実施を目標とし、事業開発と企業連携を推進しており、その取り組み内容を紹介いたします。

●「AIバイオロード・モニタリングの確立によるアスリートの負荷反応と生体応答の統合時系列モデリング」

株式会社YELLOW 代表取締役 大坂 亮平 様

本研究は、外的負荷、血液バイオマーカー、非侵襲生体データを統合し、疲労や筋損傷リスクを推定するバイオロード・モニタリングを開発する。マルチモーダルAIとAIエージェントにより解析と統合管理を自動化し、精度と即応性を高める。本手法はアスリートのパフォーマンス管理を主眼としつつ、一般の高負荷職種や日常の健康維持にも応用可能な汎用的生体モニタリング基盤を提供する。

●「メディカルフィットネスの可能性」

メディカルフィットネスMOVE ON マネージャー 渡辺 幸太郎 様

医療と運動を融合した「メディカルフィットネス」は、一般的なフィットネスクラブでは対応が難しい“医療的安全性”と“継続可能な運動支援”を提供する新たな地域インフラである。厚労省指定運動療法施設としての認可により医療費控除の対象となる制度的優遇も見込まれる。AI搭載マシン(EGYM)・医療連携・有資格者による専門的支援を基盤に、安全で効果的な運動を提供し、健康寿命延伸と地域の活力創出に寄与する。

●「TOLICウェルビーイングによる地方創生構想」

株式会社TOLIMS 代表取締役会長 片野 圭二 様

当社は骨盤底筋トレーニング装置を開発して、便失禁、便秘等の排便機能障害や尿失禁、産前産後等の用途に広く展開中である。今後骨盤底を中心にTOLICウェルビーイングを目指して、ヘルスケア製品の開発・実証・サービス事業を行い、産学官金連携で地域展開することで、健やかに自分らしく生きやすい『いわて』実現することで、少子化に歯止めかけることを目指します。

●「母子保健・予防接種分野のDXに関する取り組み」

株式会社ミラボ 営業部 セールスマーケチーム チーフ 菅原 賢二 様

株式会社ミラボは「母子保健・予防接種分野のDXに関する取り組み」を発表します。

本発表では、自社サービス「mila-e おやこ手帳」と「mila-e 予防接種」の連携による母子保健情報と予防接種管理の効率化について紹介します。

さらに、「予防接種事務のデジタル化」との連携も予定しており、デジタル化による情報の一元管理や事務負担軽減、保護者への迅速な情報提供など、DX推進の実践例と課題をお伝えします。



講演アブストラクト

●「分子接合技術とその医療機器展開」

株式会社いおう化学研究所 代表取締役社長 森 克仁 様

分子接合技術のキーワードとして、①超薄膜接合、②選択的接合、③共有結合による強固な接合、④難接着材料に適用可能な接合が挙げられる。例えば、①、②の特長より、非接合部を中空として使用できるため、流路形成が可能である。また、医療分野で使用される材料の多くは、生体不活性材料であり、③、④の特長を生かすと、このような難接着材料においても強固な接合が可能である。本発表では、生体不活性材料の代表的な材料であるシリコーンゴムの接合を中心に紹介する。

●「タンパク質非吸着コーティング材のご提案～次世代バイオ医薬品の安定性向上に向けて」

AGC株式会社 技術本部材料融合研究所

有機材料部 複合化材料チーム マネージャー 谷口 太平 様

バイオ医薬品の普及に伴い、バイアル内での製剤安定性が大きな課題となっている。従来は処方設計や賦形剤での安定化が主流であったが、容器内壁面への吸着や凝集といった界面由来の不安定化には十分な対策がなされていなかった。AGCはこの課題に着目し、独自のポリマーコーティングFicetrio®をバイアル内面に施すことによって、タンパク質吸着や変性・凝集を抑制し、長期安定化を実現する。本技術は核酸医薬や細胞培養にも応用が進んでおり、共同研究を通じさらなる展開を図る。

●「医療デバイス・イノベーションのおこしかた」

Zenius株式会社 代表取締役 六車 惟 様

高い技術力や品質管理能力を有することから、日本は「ものづくり大国」としてグローバルに認知されていますが、生憎その「ものづくり力」を活かした国産デバイスは現状まだ少なく、DDS含む医療機器分野はその多くを輸入に頼っています。私たちはそんな現状を打破したく、日本の「ものづくり力」が活かせる国産の医療デバイスイノベーションを、日本発のDDSおよびコンビネーションプロダクトを世界に届けるため日夜活動しています。今回はそんな私たちが日々イノベーションとどう向き合い、どう課題解決しているか、欧州の最先端の開発現場で培ったペイシエント・セントリシティの考え方など含め、一部事例を交えながらご紹介して参ります。

●「救急医療と地域DXの実践」

Golden Field株式会社 代表取締役 金野 利哉 様

本発表では、私自身が消防士・救急救命士として現場に立ち、青年海外協力隊での活動を経験する中で感じた課題を出発点に、社会的ニーズに応えるべく起業に至った経緯をご紹介します。救急医療に携わりながら、地域の医療・産業現場が抱える課題をDXで解決するため、遠隔見守りや安全管理などの実践的なアプリ開発に取り組んできました。本講演では、その取り組みと地域DXの可能性についてお話しします。

●「遠隔運動療法アプリケーションUpdate 2025 end of the year」

株式会社UTヘルステック 代表取締役CEO 織部 一弥 様

2025年末現在における当社が開発している運動療法アプリケーションに関する状況を説明する。今までに集めた知見は以下の通りである。

- 厚生労働省が発表している遠隔医療推進指針を発見した
- リモハブ社のシステムが承認を取れたことは我々のロールモデルが存在することになったことを受け止めている。
- MEDICAに出展して、欧州にも我々のマーケットがあることを確認した。
- 日本スペインウィークに出展して、側弯症運動療法の分野は急速にマーケットの関心が高まっていることを発見した。

●「海外展示会報告 - Bio Europe / MEDICA - 」

株式会社TOLIMS 代表取締役社長 片野 友貴 様

2025年11月にオーストリア ウィーンで開催されたBio Europeへの出展、MEDICA渡航及びTOLIC海外展開の状況について報告いたします。また当社事業であるTOLIC企業の販売・マーケティング支援の内容や事例を紹介させていただきます。